

## 平成29年度 第2回西区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成29年度10月24日(火)午後1時15分から
会場	西区役所健康センター棟1階 大会議室
出席者	西区自治協議会委員 出席18名 教育委員：沢野教育委員、上田教育委員 事務局：教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課課長補佐、 坂井輪図書館長、坂井輪地区公民館長、西区教育支援センター所長、 小瀬小学校長、黒崎中学校長
議事	1 開会 2 出席者紹介 3 事務局説明(学校支援課) 平成29年度全国学力・学習状況調査新潟市の結果について
自治協委員	(質問) 学習状況調査集計について、全国あるいは他県から比べて、いい結果も出ているのではないかなと思っているが、現場の小学校、中学校では何か特別な指導をされているか。その結果がこのようないい方向に行っていると評価されるのか。
教育委員会 事務局	インターネットの危険性の指導は十分に行っているが、テレビを見る時間に関して、多くは話をしていない。 家庭学習については今年度「新潟市の家庭学習」というリーフレットを作成し、主体的に家庭学習ができるようにと指導している。その家庭学習が充実したことによって、テレビ、ビデオ、スマートフォンの使用時間が減っているものと考えている。
自治協委員	私のところの小学校では学力学習状況調査の結果を、西区、新潟市、全国の平均を出して地域に回覧されているが、教育委員会がそういう指導をされているか。中学校単位で、例えば西区、新潟市、全国平均を出されたほうがよいのではないか。
教育委員会 事務局	地域への回覧について、自分のところの学校の保護者及び地域の方々に、住んでいる地域の学校がどのような状態なのかを全国、県、市と比べて示すように指示を出している。 個別に中学校単位となると、どうしても私はこの学校の住民なんだけど、そこに入学させないでこっちにしようになってしまう危険性が高いということで、区単位でやっている。
議事	4 意見交換(司会 西区教育支援センター所長) テーマ：西区からいじめをなくすために私たちができること

副題：いじめのない地域をつくるために、学校・地域・家庭で連携して何ができるのか

司会 部会長より、本日のテーマを選定した理由について、意見交換における視点と併せて説明をしてもらおう。

自治協委員 (本日のテーマについて)いじめという大きな問題を、私たち地域の者が語れるか。子どもたちはいろいろなところで生きづらさを感じているのではないか。私たちがどのように支援ができるのか。そこから話が始まった。

私たちは子どもたちにとっていじめのない社会づくりをしていくために、何ができるかを考えていきたい、考えていく必要があるのではないかとというところで、この少し重たいテーマを挙げた。

地域と学校パートナーシップ事業が始まり、10年が経過し、地域と学校が協働で地域の子どもの育てようという取り組みが定着しつつある。その中で子どもたちのことに地域が関心を持ってきている時代になっている。その土壌の中で、私たちは今一度みんなでいじめに対して考え、意見交換を行いたい。

教育委員会事務局 新潟市のいじめの現状や取り組みについて、学校支援課長補佐より資料を用いて説明

司会 今日は二人の校長先生より来てもらっているのですが、現在の学校や、今までの経験などからの取り組みのほか、特に地域、家庭との連携やつながりでよかったこと、困っていることなどの話をさせていただく。

小瀬小学校長 小瀬小学校は小さな学校なので、地域の皆さま方との密着度はとても高い。

今年度はまず中学校区いじめ防止連絡協議会を開いた。その会は中学校1校と小学校2校からなり、管理職及び民生児童委員、生活指導の担当者が集まり、それぞれの地域の実態について話し合いを行った。併せて今年度いろいろなトラブルに対しては、すぐに学校を交えて一緒に相談しようという組織固めを行った。

当校はパートナーシップ事業に力を入れている。コーディネーターが頑張り、4月からこの9月、10月までに、ボランティアが188名学校で活動した。放課後の子どもクラブにも民生児童委員たちが関わり、セーフティスタッフが登下校の見守りをしてくれるが、この方たちがとても子どもたちをよく見てくれる。

子どもたちは学校内だけで活動しているわけではなく、地域でも活動するし、その他家庭でのトラブルも抱えていたりする。全ていろいろなことを細かいところも含めて、学校に情報を上げてくれる。たくさんの目で子どもたちを見ていくということが大事なのだなということを感じている。

地域との関わりはとても大事で、この人はよく分かってくれる人だと思うと、子どもたちが担任や自分の親にも語れないことも話ができるというメリットもあるようだ。

これからもそういうつながりを大事にしたい。

黒崎中学校  
長

地域の皆さまとの関係では、2年生で職場体験、1年生で職場訪問という形で、世話になっている。その中で子どもたちの様子について情報をもらうこともある。

黒崎地区には青少年育成協議会有り、毎年12月の青少年健全育成大会で、各区の小学校も含めた5つの学校から、子どもたちが自分の考えたことを発表する機会がある。

個別の事例では塾や社会体験で頑張っているという自負がある。例えば小学校は一緒だったが中学校は別々になった。塾や社会体験の活動の中では一緒に活動をするときに、学校ではそのいじめの場面が確認できない。でも保護者から相談があれば、塾の講師や社会体験の指導者の方に保護者の情報を提供しながら指導してもらおう。そういうことが過去に私の経験ではある。

今年度、保護者の方へのアンケートをした。

「いじめをしないようにお子さまに話をされていますか」では、9割の保護者の方が話をしており、9割ぐらいの子どもたちは親から聞いている。

「保護者の方がお子さまを褒めたり、認めたりしているか」では、保護者の方は9割ぐらい肯定的な回答だが、子どもたちはほぼ7割ぐらい。

5人に1人は保護者の方からそういう認められたり、褒められたりしていない。そこにギャップがある。

いじめの温床となるのは、子どもたちが自分のことをしっかり認めてもらっているという意識があるかないかで、私どもきちっととらえておかなければいけない。

自己肯定感が高まるような指導をしっかり行わなければいけないと思っており、学校だけでなく、地域、保護者の方と一緒に頑張っていくことが非常に大事だと感じている。

自治協委員

育成協議会で年度計画の中に11月にいじめを課題にした勉強会をやる。生徒さんも入ってもらい、地域の方、PTAも一緒になって、いじめについての話し合いをする。

人間がいる限りはいじめというのはゼロにはならない。だからゼロにしようとか、ゼロ宣言とか、そういう宣言ありきはやめてほしい。いじめは優越感の問題など、根本的な心理状態から発生しているのではないか。

いじめというものが一体どこから発生すると理解されているか両校長先生に聞かせていただきたい。

小瀬小学校  
長

いじめはなくしたくてもなくなるということ、それは現実だと私はとらえている。だからこそ、どうやって人が人と仲良くなって生きていくのか、人を認めていくのかというのを、これからは生き方としてそこを学んでいくのが一番大事なのではないかなととらえている。

黒崎中学校 長	<p>そういう意識があるのかないのかも問題なのだが、意識しなくてもそういう発言をしてしまうことがあり得る。例えば中学校であれば、部活動でいいチームになるにはこうしてもらいたい、それを言った子は善意で言っていると自分では解釈しているわけだが、受け止められ方が違うという場合もある。こういうところを我々は見ていく必要がある。</p>
司会	<p>来年度から道徳がまた学校で教科になるが、市でも取り組みを進めているところ、学校支援課からお話を。</p>
教育委員会 事務局	<p>授業で行われる道徳の時間では、あなたならどうするかを真正面から問うて、自分自身のこととして多角的に考え、議論していく授業を実施している。</p> <p>題材的には、親切、思いやりとか、善悪の判断。いじめに関しては自立なども大切。相手の個性の伸長や友情、そのようなものを題材として道徳を扱っている。</p> <p>学校の中で一番時間を使っている授業の中で、道徳心とか自己肯定感とか、他を認める。そのような授業を組めないか、かなり前から新潟市は取り組んでいる。大事にしているのは自己決定する力を付けることだ。</p>
自治協委員	<p>いじめというのは個別的なものであって、多数あるから深刻なのではなくて、1件でもその質によっては深刻だと思う。</p> <p>子どもというのは、学校の学級という集団の中での活動がほとんどを占める。その中で立ち位置というものは本人が変えようと思っても、なかなか変えられない。</p> <p>しかし一方、学校とは違う集団、例えば学校と地域とのパートナーシップ活動になると、そこで思わぬ自分の役割が回ってきたり、自分の同胞が生まれたり、人間関係をうまくつくっていく技を身に付けていくことができる。</p> <p>非常にこういう多様な活動、多様な集団での活動というのは大事だと思う。</p> <p>小瀬小学校では、今、地域活動をやっていくにしても、コーディネーター、地域のリーダーを育てることも難しいといわれている中で、本当に素晴らしい活動を見せてもらった。どんなふうに行っているのか、お話してほしい。</p>
自治協委員	<p>スポーツ推進委員という立場で、スポーツ鬼ごっこを西区に広める仕事の依頼を受け、西区の学校にお邪魔したが、小瀬小学校にお邪魔したときが一番素晴らしかった。それは別にいい子だとか悪い子ではなく、自然に上学年の子どもが下学年の子どもを見るということが、一言も大人が何も言わなくてもちゃんとできている。どんな指導をされて、素晴らしいリーダーシップを育てたかをお聞きしたい。</p>
小瀬小学校 長	<p>小瀬小学校はずっと縦割りの活動を重視している。本年度も6年生は7名しかいないが、その6年生が全ての行事で、運動会も含めて、どんなときにも核になって下の学年をまとめていくというスタイルで全てが行われている。</p> <p>JRC(青少年赤十字)の活動に取り組んでおり、自分で考え、自分で気付いて、</p>

行動していくことが根づいていると思う。

地域との関わりでは、9年目を迎えられるコーディネーターと学校、地域の皆さま方が小瀬小学校をととても大事にしてくださっている。

この学校を大事にする地域の風土は1年や2年でできたものでは絶対なく、長い間、時間をかけてつくってもらった。大事にせねばならない。

自治協委員

確かに教育委員会そのものも毎年よくなっている。今日の皆さま方の賞賛の意見を非常にありがたいと思うし、その方向に向いていることは、私も確認をしている。

最近新聞を見ると、担任、部活の先生の攻撃、暴力を伴わない口の攻撃によるいじめが最近また出てきている。

小規模校においては、学校長の権限が非常に強い。そうすると、担任、部活の先生も、あまり事を大きくしたくない、教育委員会の耳に入れたくないとなるので、教職員の研修会等で、そういったところもプラスして指導してほしい。

教育委員会  
事務局

担任が校長に、管理職に話をし、また校長がそこでとどめておくということがないように指導している。

これ以上のものに関しては必ず上げなさいということで、徹底するよう各校に指導していきたい。

司会

1つの学校や地域だけではなく、今ほど話があったような取り組みが、西区全体としてどう取り組みを続けるとよいか、ご意見をいただきたい。

自治協委員

心が折れそうになったときに、やはり子どもは先生が、本当に頼りでした。

先生に子どもの目をしっかり見て、言葉をしっかり聞いて対応していただきたい。子どもが失望することがないように、その子が苦しんでいたらその子を信じて、聞いてから解決を図る、そういう子どもの信頼を受けるような先生でいていただきたいと思う。

先生同士が、なあなあで済ませないで、しっかり指摘して、周りの先生がフォローしてくれる、そういう学校の体制をつくってもらいたい。

司会

今日は学校支援課のほか校長先生方からも来てもらっているので、こちらの発言については、校長会等を通じて、しっかり皆さんに伝えていってほしい。

自治協委員

いじめをゼロにというのは、やはり目指すべき姿なのではないか。人間社会だからゼロにはならないでなくて、私たち大人もゼロにしていくという気持ちで生きていかなければ、子どもには伝わらないのではないかと感じた。子どもたちにとってはいろいろな人から見てもらえ、声をかけてもらえる環境が大事ではないか。

パートナーシップ事業が始まり、いろいろな方が学校に入ると、何かいつもと少

し違う視点が入って、子どもが何か生きづらいとか、息がしにくいとか、こういう自分を変えたいとか、そういうSOSをキャッチできる人が増えてくれるといいと思う。

小瀬の子どもたちのように、自分が6年生からしてもらった温かい気持ちは、後から6年生になったときにしてあげる。自分が思いやってもらったから思いやる。そんな社会を西区でつくってあげたいと思う。

自治協委員 私はコミュニティ、地域の事業の場に、小学生、中学生、そしてその親、そういう人たちがいかに入って来てくれるか。みんな入ってもらった事業展開がいかにできるか。そしてより多くの機関を絡ませるかが大事。できるだけいい形の事業展開をするように心がけていきたい。

自治協委員 学校では、先生が一生懸命授業し、分からなかったらしっかり教えてくれて、先生が憧れになるような信頼関係ができ、もし自分がお友達からからかわれたときに、先生にちょっと声をかけて解決ができる、そんなことがいいと思う。

地域では、子どもたちと関わることもあるが、親として、大人として、お隣のおばさんとして、やはり背中を見せてあげ、温かい人柄で接して、さまざまなことをフランクに話し合える状況ができれば、子どもたちの人格形成の中では、充実した実体験となっていくのではないかな。

自治協委員 ボランティアで家庭科の授業にお手伝いをしているが、いつも、上手とか、こころまいねと褒めていたが、それを聞いたほかの子はどういう思いでいたのかなと、何か少し不安になった。

小瀬小学校 子どもたちは、本当に褒められているときは、とてもうれしいとよく分かる。素晴らしい褒め方だと思う。周りの子はたぶん担任がちゃんと見ており、あなたも上手にできたよとか、これくらい褒められるようにまた頑張ろうねと必ず言っているはずなので、今のようにしてもらえば十分だと思う。

司会 本日の意見交換について、校長先生及び教育委員の皆さまから感想などを聞きたい。

黒崎中学校 なかなか学校にいないとお聞きできない話がいっぱい聞けた。私は今日のご意見を自分の学校の運営に生かしていきたいと思う。本当にありがとうございました。

小瀬小学校 私の目を開かせてもらった貴重な会だったと思う。この経験を校長会でも、当校の職員にも、保護者の方たちにも、お話をしたいと思う。学校現場の活動をこれだけたくさんの方たちに見てもらえるのは、管理職としてはとてもうれしい。これからの学校経営に生かしていく。本当にありがとうございました。

沢野教育委員 いろいろな尺度からたくさんのご意見をいただき、本当にありがとうございました。一つ一つのご意見、考えさせてもらうことができた。

「人からされて嫌なことは人に絶対しない。人からされてうれしいことは自分も人にしてあげる」今通ずるものがあるとしたら、もしかしたらこれがゴールデンルールといえるものかなと思った。

大人も、原点に帰るといふか、いつ戻って考えてもいいことだなと改めて思った。

上田教育委員 西区というところは市民活動が活発な所だと思っており、また今新しいテーマをもって、今後について意見交換ができたということはいいことだと思う。

パートナーシップ事業を見て、地域の方が学校に入って、いろいろな方が子どもたちに接する。今まで学校の中で味わえないことを、地域社会で味わいながら、自己肯定感は育っていくと思う。

今は他との違いを非難し合う社会じゃなくて、それを認め合っていけるようになったらいいと思う。そういう中で、また西区の子どもたちが、皆さん温かい目で見守りながら、育てていただくということを、教育委員として、また話合いをさせてもらいたいと思うので、よろしく願いいたします。

議 事 5 西区自治協議会第2会長挨拶

いじめという題でたくさん意見が出た。親の気持ち、地域のボランティアの気持ち、そしてコミ協の代表として事業を展開する機会を増やそうかなど、これから西区でやれそうなことが身近なところから始められるのだなと感じた。

私たち西区のみんなが子どもたちの信頼をもらって、同じ目線で子どもたちに何かあったときに、すぐに話してくれるような地域のおばさん、おじさん、皆さんと一緒にいけば、いじめは本当に減っていくのではないかと感じた。

今日はありがとうございました。

6 閉会